

「高齢者が元気に取り組める防災体操づくり」

学生団体名：よりそいの花プロジェクト・北陸学院大学
深谷和夏・森山里・中島佳恵・乙川友理・高陽希、他3名

1. 概要

本プロジェクトは防災教育に取り組む能都町小木中学校2年生と東日本大震災被災地支援活動等に積極的に取り組む北陸学院大学よりそいの花プロジェクトメンバーが交流・連携し、「災害による犠牲者を一人も出さない」というスローガンのもと、地域防災意識の涵養を目的とした津波防災体操の開発を主たる目的とするものである。

2. 具体的内容

2.1 活動の骨子

本プロジェクトの最終ゴールはオリジナルの津波防災体操を開発することにある。中学生と大学生との合同によるプログラム開発はチャレンジングな試みであり、当初は両者の緊張をほぐし、親密な関係を作ることに十分な時間をかけた。キャンパスが金沢にある北陸学院大学と能登町にある小木中学校との距離は片道約110キロ。移動時間だけで片道2時間半を要するため、日程を調整は決して容易でなかったが、本番となる防災訓練までに3度の合同活動（内1回は1泊2日の合宿）の機会を持つことができた。

プログラム開発は中学生が作った防災体操を土台として位置付け、これにアレンジを加えていく方法で進めた。特に歌詞については中学生考案のオリジナル歌詞を全面的に採用した。交流の際、歌詞の中で特に強調すべき点についてじっくりと話し合うことにした。中学生が歌詞を考えたきっかけの一つに東日本大震災がある。甚大な津波被害をもたらした東日本大震災は小木中学校の生徒にとっても他人事ではなかった。石川県発表の津波浸水想定によれば、能登町小木では最大津波高6.5メートル、第一波到達時間14分とある。同地区では海岸に近いエリアに多くの高齢住民が居住していることから、万が一災害が発生したとき、適切に避難行動できるのかという不安を中学生自身が抱いている。そのため歌詞には「一人も犠牲者を出したくない」という強いメッセージが込められている。歌詞の中でも特に強く伝えたい部分を議論し、それらを踊りで強調するアレンジを考案する際、中心的な役割を担ったのがダンス部に所属する大学生である。こうして踊りのアレンジ、フォーメーションを調整しオリジナル津波防災体操は完成した。また一連の防災体操は健康体操として普及することも狙いに行っている。避難行動をするためには体力を維持し健康であることが重要となるからだ。そのため体操には高齢者が気軽に取り組めるような工夫や健康維持のための配慮が全体を通して組み込まれている。将来的には能登町の誰もがこの踊りを踊ることができ、それが地域防災力の向上、減災コミュニティづくりの一助になってもらいたいというのが、中学生および大学生の切なる思いである。

2.2 活動日時

本プロジェクトでは以下の通り、計4回の活動を実施した。

第1回：8月31日 1200～1330

第 2 回：9 月 16 日 1230～17 日 1300

第 3 回：11 月 1 日（土）1400～1700

第 4 回：11 月 24 日（月・祝） 9：00～13：00

2.3 学生及び住民の参加者数

第 1 回：参加者 29 名（中学生 23 名、大学生 3 名、教員 3 名）



第 2 回：参加者 30 名（中学生 23 名、大学生 6 名、教員 3 名）



第 3 回：参加者 32 名（中学生 23 名、大学生 7 名、教員 2 名）



第4回：小木地区防災訓練会場での完成版津波防災体操の披露
中学生 23 名、大学生 7 名、小学生及び地域住民約 400 名



2.4 地域からの支援

本プロジェクトの推進に当たっては能登町立小木中学校をはじめ、能登町社会福祉協議会からのサポートを得ることができた。

3. 成果

ここではプロジェクト成果について3つの点から述べたい。

① オリジナル津波防災体操の完成・披露

11月24日の地域防災訓練の会場となった小学校体育館において住民を前に津波防災体操を披露することができた。当日は約400人の地域住民が参加しており、あらためて地域の防災意識の高さを知ることになったが、集まった約400人の住民が津波防災体操と一緒に踊ってくれたことは中学生および大学生にとっては忘れられない時間となった。

② DVDの製作と配布

防災訓練当日の体操の様子を録画・編集し、DVDを制作した。DVD制作は能登町社会福祉協議会からのサポートにより可能となった。DVDについては能登町内福祉施設等に配布し、健康体操として取り組んでもらうとともに、町内各所に配布し活用してもらう。

③ メディアによる注目

メディアによるまた一連の活動については途中経過、防災訓練時の様子を含め北國新聞、北陸中日新聞、北陸放送など各種メディアに取り上げていただいた。

4. 来年度の地域活動計画

能登町での取り組みであったことから、限られた予算のほとんどが往復の移動に係る経費に充当したことから、これ以外の部分の資料作成等で必要な経費の捻出に苦労した。奥能登など移動にコストと時間がかかる地域のニーズや課題解決に取り組む活動を積極的に発掘、発展させていこうとする場合、経費負担のあり方など乗り越えなければならない課題はある。

次年度については改めて費等を製作した DVD を手掛かりに、津波防災体操の地域内での普及に取り組むとともに、体操をきっかけとした地域防災の向上に努めることができると考えている。

5. 学生の感想

以下に参加した大学生のコメントの一部を紹介する。

■ 深谷和夏（幼児児童教育学科 4 年）

小木地区での防災訓練では、地域の方全員と一緒に体操をしてくれたことがとても嬉しく、これが日常の体操として浸透・普及して欲しいと思いました。防災体操は中学生が考えてくれた歌と踊りに大学生がアレンジを加えました。中学生から私たちも知らない知識を教えてもらい、日頃から防災への関心が高いことを実感しました。防災体操の取り組みの中で自分の意見を話したり、聞いたりすることはとてもいい刺激になったと思います。次のステップはこの体操をさらに広めて行くことだと思います。地域の高齢者施設や保育施設で行い、多くの人に防災の知識と身体ほぐれを感じられる防災体操を知ってもらいたいと思います。

■ 乙川由理（幼児児童教育学科 3 年）

中学生が防災に対する意識や知識が豊富なことに驚き、自分の住んでいる地域での防災について考えているところがすばらしいと感じた。防災体操の歌詞には、一文一文に知識や気持ちが込められている。それが活かされるように、また、体操が幅広い年代に伝わって欲しいという思いで体操を作った。防災訓練時に中学生と披露した時はとても達成感があった。子どもからお年寄りのかたまで、地域の皆さんが体操する姿を見て、感動した。

■ 中島佳恵（幼児児童教育学科 2 年）

小木中学校との交流の時間を大切にすることで、互いの関係が深まり、動きもより良いものになったのではないかと思います。防災体操の歌には、「津波で一人も犠牲者を出したくない」というメッセージが込められています。そんなすばらしい防災体操を小木の地域だけでなく、他の地域の方々にも知ってもらいたい。いつ地震が起こるか、予測が付きません。そんな時にこの防災体操の歌を思い出し、多くの方々に役立ててもらえたら嬉しいです。

6. 地域からの評価

中学生が大学生とともに取り組みオリジナル防災教育プログラムを開発したことについては、防災訓練に参加した地元住民を中心に高い評価を得ている。特に能登町社会福祉協議会からは、DVD を活用し健康体操を兼ねた防災の学びの機会が作れるのではないかといい積極的なコメントをいただいている。

学校関係者からも高い評価を得ている。地元中学生が大学生と交流する機会はほとんどない。プログラム作りの過程では休憩中に大学生と和気あいあいと会話する光景がたびたび見受けられた。大学生との交流は、中学生の学習意欲等によい刺激になっているとの声を頂いた。